



上田 博章(絵・文)

1933年徳島市生まれ 大阪府在住
■京都大学農学部林学科卒業
■元朝日放送アナウンサー
■元池田マルチメディア代表取締役
■講演、朗読指導など以外は隠居中

むかし「局アナ」いま「隠居」

ジュエルの胸



マンチェスター大学で、「戦時中の日本の子供達はどう暮らしていたのか…」こんな研究を続けている美人学者ピエールさんから質問のメールが届いたのは、戦後 70年の節目を迎えた二〇一五年秋のことでした。日本語が達者な彼女が、この年六月に来日したときインタビューした録音を、帰国して聴いてみたところ「セイジュウシヨウ」という言葉が出てきて、何のことだか判らないというのです。そんなもん私に聞いても判りませんか。

戦時中の日本とその生活や教育を研究している金澤マチエスターの研究員「ハリエール・ピエールさん(90)は、長野県長野市豊野町に生まれ、戦時中、大分県津久井市で育ち、戦後、上田さん(91)と結婚し、上田さん(91)が水内郡津和野町(現津和野町)で、上田さん(91)が豊野町で育ちました。戦時中の日本とその生活や教育を研究している金澤マチエスターの研究員「ハリエール・ピエールさん(90)は、長野県長野市豊野町に生まれ、戦時中、大分県津久井市で育ち、戦後、上田さん(91)と結婚し、上田さん(91)が水内郡津和野町(現津和野町)で、上田さん(91)が豊野町で育ちました。」

疎開生活 子どもの心情は

英国から女性研究者 長野で聞き取り



戦時中に長野市に疎開した上田さん(左)や、受け入れ先だった高津さん(右)の話を聞くピエールさん(13日、長野市豊野町)

兼ねて、久しぶりに信州の豊野まで出かけました。ピエールさんと私の豊野訪問は、信濃毎日など地元二紙の紙面をカラー写真で飾る事になり、アロハ姿の私も左端に写っています。このときピエールさんがインタビューした家主の、

「戦前、大阪砲兵工廠や「被服廠」があったように、多くの場合、兵器や紙幣、貨幣などを作る政府直轄の工場を「〇〇廠」と呼んでいたようです。という次第で「製絨廠」は、ウール地の織物工場であることが判明したのでした。戦時中、羅紗やサージは貴重な統制品でしたから、盗難や横流しを防ぐために

信頼できる素封家の土蔵に
保管を依頼したのでしよう。
「セイジュウシヨウ」の解明
によって私は、子供の頃の
疑問が一つ解決たのです。

＊

出征兵士を送る歌として
代表的なものといえば、
♪勝ってくるぞと勇ましく
♪わが大君に召されたる…
と歌う「出征兵士を送る歌」
…この二曲が有名ですが、
「出征兵士を送る歌」の二番
の歌詞はこんな文句でした。

♪

華と咲く身の感激を
絨衣の胸に引き緊めて
正義の軍征くところ
誰か阻まん その歩武を
いざ征け強者 日本男児

戦時中の子供達は軍歌を
よく歌っていたものですが、
意味はおろか 読むことも
できないような難しい字が
やたら出て来ました。
「出征兵士を送る歌」など
振り仮名だらけです。

中でも二行目の「絨衣」は、
国民学校の学童だった私が
知るわけありません。

「ジューイって何だろう？」

「獣医」かな？ そりゃ変だ。

「周囲」の胸に引き緊めて…

…意味不明になるしなあ。

「中尉」の胸に引き緊めて…

…も変だけど、この中尉は

特別な因縁のある人だろう。

「中尉」で歌っておくか…

私は歌も音楽も、大好き

でしたが、歌詞に関しては

きわめて無頓着だったので、

恥ずかしながら、

「♪中尉の胸に引き緊めて」

と歌っていました。

しかし、考えてみれば、

当時の大人が、子供たちに、

「ジューイの胸ってなに？」

と尋ねられて、ちゃんと

説明出来たのでしょうか。

私なんか 80歳を過ぎて、

やっと70年来の謎が解けた
のですからねえ。

＊

それにしても この歌の
歌詞はあまりにも難しい。

ネットを覗いてみても、

「出征兵士を送る歌」は歌詞

の意味が分かりにくいので

教えて下さい」

という質問が目立ちます。

例えば二番の歌詞にある、

「誰か阻まんその歩武を」

…の「歩武」です。

読み方もさることながら、

意味が解らんという点では

「戎衣」と並んで、「歩武」も

難しい言葉でしょう。

広辞苑で「歩武」を引くと

「歩み」足取り「足の運び」

という意味が出て来ますが、

この場合「武」には「一歩の

半分、つまり「半歩」という

意味もあり、「武」が付いて

いるからといって必ずしも

「武力進駐」という物騒な

意味ではないようです。

＊

「出征兵士を送る歌」は、
二番以外にも難しい言葉が
ありました。

例えば三番の歌詞の中に、
「無敵日本の武勳を」
というのがあって武勳を

「いさおし」と読ませます。
この名詞は文語の形容詞、

「いさおし(勇ましい)」が
名詞化したものか、文語の

「間投助詞」の「し」なのか、
私にはよく判りません。

もう一つ、五番の歌詞に
こんながありました。

「勇ましいかなこの首途」…

「首途」と書いて「かどで」と
読む…もう「理不尽やでエ」

と言いたくなります。

でもワードで「かどで」を

転換すると「門出」のあとに

「首途」が 申訳なさそうに

控えていました。

「首」には、「はじめ」という

意味もあるのだそうですが、

戦後の「当用漢字音訓表」に

「首途」を「かどで」と読む

根拠が見当たりません。

ですから、小、中学校で

「首途」を教えることはもう

ないと思います。

＊

「大盤石のこの備え」

これは 四番に出て来る

歌詞の一節です。

「盤石」は難しいとは言えま

せんが、小学校低学年では

読めないかも知れません。

でも私は小学校一年生の

くせに、「盤石」がちゃんと

読めましたし、その意味も

承知していました。

なぜなら一九四〇年前後、

双葉山全盛時代の相撲界で

盤石という四股名の関取が

活躍していたからです。

大阪市出身の人気力士で

引退して間もなく、36歳の

若さで亡くなりました。

私が現役のころ、恒例の
朝日、毎日、NHK三局の
局アナによる「知事盃争奪
三局対抗 ゴルフコンペ」に
出たときのことです。

NHK大阪放送局に転勤

したばかりの小六英介アナ

ウンサーが来ていました。

「小六」と来れば蜂須賀小六

…徳島出身の私でなくても

記憶に残る珍しい名前です。

小六アナの顔はテレビで

知っていました。実物を

見上げて吃驚しました。

一メートル近い大男です。



親しいNHKの某アナに、
「小六さんはデカいっすね」
と話しかけたら、

「あれ？ ご存じなかった？」

盤石の息子ですよ」

その小六さんも今や80歳。

最近、小六という名前の

若い女子アナを見ましたが

お孫さんでしょうか。